

自主防災組織の現状は

答 全 11 校区に設立されているが改善の余地はある



辻 義満 議員

防災への取組みは

問 熊本地震後の防災への取組みは。

防災安全課長 災害対応マニュアルや業務継続計画を作成し、北部交流センターに防災倉庫を増設

した。今年度は、防災安全課を新設し、防災専門員を配置する。

問 校区の訓練や自主防災組織も、変化とレベルアップが必要では。

防災安全課長 改善の余地はある。自主防災組織の役員と協議し、できるだけ早く実践的な訓練をし、底上げしたい。

問 防災専門員についてはどうなっているか。

防災安全課長 8月1日から週4日勤務で採用。防災対応、災害対応をしてもらおう。

問 役割は。
防災安全課長 経験に基



訓練を通して意識の向上を
(松原校区自主防災組織)

づく知識を活かし、職員研修、災害対策本部、自主防災組織への指導助言。また、浸水想定区域内にある福祉施設、学校など要配慮者施設の避難計画や避難訓練も想定。

防災に対する意識の向上を

問 自然災害の多い国に住む自覚と防災に対する市民の意識向上を。

市長 市民の意識を高めるために努力する。職員の訓練も自主防災組織の訓練も、実践に近い形で実施しなければならない。

傍聴席の声



心の低さを感じた。議員は、支援者やコミュニティ団体に積極的に傍聴を呼びかけてほしい。

(60代男性)

傍聴時の託児予約が、4日前と決められているが、質問者の時間が定かでないで行きにくいとの声がある。なにかいい方法を考えてほしい。

(60代女性)

◆ 久しぶりの傍聴。質問者、答弁者も大変勉強しているように感じた。机上の議論だけでなく実行してもらいたい。

(70代男性)

◆ 女性議員が1人では少なすぎ。5〜6人は必要。小学校の再編については、データや住民の意見等充分吟味の上、説明が必要。

(60代男性)

◆ 本日の傍聴者は5人。筑後市民の政治に対する関

今回も、多くの市民のみなさんに傍聴いただき、ありがとうございました。また、貴重なご意見ありがとうございました。今後、議会の運営の参考にしたいと思えます。

次回も多くの方の傍聴をお待ちしています。

